

臨時農業生産情報

(落雷・突風・降ひょうに対する技術対策)

令和8年6月11日
青森県「農林水産力」強化本部

青森地方气象台発表(2026年6月11日15時51分)「青森県気象解説情報(落雷・突風・降ひょう)第1号」によると、県内は、12日昼前から夜遅くにかけて、大気の状態が非常に不安定となる見込みです。竜巻などの激しい突風や落雷、降ひょう、急な強い雨に注意してください。

今後の気象情報に十分注意し、次の事項に留意して、被害の未然防止と軽減に努めてください。

【事前対策】

1 りんご・特産果樹

- (1) おうとうの雨よけ施設やぶどうのハウス施設、りんごのトレリスなどの破損・倒壊を防ぐため、マイカ線等の締め直しや支柱等による補強を行う。
- (2) りんごのわい化樹や幼木は、支柱への結束状況を点検し、ゆるんでいる場合は再度結束する。

2 野菜・花き・畑作

- (1) ビニールハウスやトンネルでは、倒壊したり被覆資材が飛散しないよう施設等の点検、補修を行うとともに、マイカ線や支柱などで補強する。
- (2) マルチ資材は、飛散しないよう土でしっかり固定する。
- (3) 施設周辺やほ場に排水溝を設け、排水対策に努める。

3 水 稲

4～5 cm程度の適水位を維持しながら排水できるよう、ほ場の排水口で調節するとともに、排水路の点検・整備を徹底する。

4 畜 産

- (1) ロールベールサイレージは、ストレッチフィルムの破損を防ぐため、ブルーシート等で覆う。
- (2) 畜舎等は、破損を防ぐため、支柱等で補強するとともに、シャッターや窓などを完全に閉める。

【事後対策】

1 りんご

- (1) 降ひょうで幼果(果実直径2～3 cmの時)に被害が見られた場合、摘果に当たって、傷が果肉に達しておらず、傷の大きさが爪楊枝の頭の太さ(約2 mm程度)のものは残しながら、花芽形成や樹勢維持のため、できるだけ標準的な着果量を確保する。
- (2) 被害園ではその後の管理を怠ると、来年の生産に影響するので、薬剤散布などの栽培管理は通常どおり行う。

2 ぶどう

- (1) 降ひょうで折れた新梢は切除し、副梢の発生を促し葉枚数の確保に努める。
- (2) 被害新梢から伸長した副梢は、基部から4～5枚目で摘心し、結実確保と枝の充実に努める。
- (3) 被害を受けた花穂でもできるだけ残し、病虫害防除を徹底する。結実が見込めない場合は摘除する。

3 野菜等

- (1) ほ場やビニールハウスを点検し、被覆資材やパイプ等の破損がある場合は速やかに修復する。
- (2) 降ひょう等の被害を受けた場合は、病気が発生しやすくなるので、病気が蔓延しないよう、薬剤を散布する。

4 小麦

倒伏した小麦は、仕分け刈りを行い、未熟粒や被害粒が混入しないようにする。

報道機関用提供資料					
担当課 担当者	(りんご等果樹)				りんご果樹課生産振興グループ GM 工藤 秀樹
	(野菜・花き)【発行元】				農産園芸課野菜・花き振興グループ GM 木村 一哉
	(水稲・畑作)				農産園芸課稲作・畑作振興グループ GM 鈴木 晃
	(畜産)				畜産課経営支援グループ GM 梶田 昌裕
電話番号	(りんご等果樹)	直通	017-734-9492	内線	5146
	(野菜・花き)	直通	017-734-9481	内線	5076
	(水稲・畑作)	直通	017-734-9480	内線	5073
	(畜産)	直通	017-734-9496	内線	4814
報道監	農林水産部				
	次長 内山 真人 (内線：4966)				
	次長 相馬 宏伊 (内線：4967)				

【お知らせ】

青森県では、臨時農業生産情報をパソコンやスマートフォンにメール配信するサービスを実施しています。青森県農業情報のホームページ「農ナビ青森」からお申し込み下さい。

農ナビ青森のHPアドレス

(<https://www.nounavi-aomori.jp/>)

「トップページ」→「農業情報ページ」→「農業情報」
に掲載



農ナビ青森 QRコード